

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号

109

自己評価

<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。
<p>評価する領域・分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、評価の低かった「特色ある教育活動」「交流による経験拡大」「一人一人に合った教材・教具」「進路指導における関係諸機関との連携」「部活動、各種発表会等への積極的参加」の項目が各学部共通して評価が向上した。新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、学校行事や学部行事や校外学習等の活動が再開できたことが大きな要因であると考えられる。 ・各学部で否定的意見が多かった「児童生徒の実態の把握」「発達段階、特性に応じたきめ細かい教育」については、今後の学習指導においてさらに児童生徒の特性に合わせた教育を行う必要があり、そのために教職員が専門性の向上を図る必要がある。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を核にした、PDCAサイクルの改善 (2)児童生徒の学習活動の様子や成果の発信と、地域の教育力の活用 (3)命を守る教育と体制の充実 (4)働き方改革（教職員の働き方改革プラン2023）の推進
<p>目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な力が確実に身に付くよう児童生徒の実態を的確に捉え、将来を見据えた児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習活動を進める。新学習指導要領に伴う教育内容の充実、ICT活用の推進を図る。 ・保護者との連携を強化するとともに、障がいの理解啓発のために外部機関への発信も積極的に図る。 ・防災安全部を中心に、災害発生時に児童生徒がより主体的に行動できるような学習内容を工夫する。 ・管理職を中心に、働き方改革プラン2023を職員に周知し、推進を図る。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自発的な学習を促すよう、体験的な活動を重視するとともに、教育環境やICT機器を活用した教材・教具の開発・工夫に努める。また、研修部を中心とした授業研究を推進する。 ・連絡帳や通信等で保護者との連携を確実にするとともに、児童生徒の学習の様子について、報道機関等を通して、保護者や地域へ積極的に発信する。 ・年3回の命を守る訓練等における事前及び事後指導の充実を図るとともに、訓練により命を守る行動の定着化を図る。また、職員防災力テスト、家庭の減災力テストの実施、専門家を講師として行う防災研修を実施し、職員・家庭の防災・減災意識の向上に努める。 ・退庁時刻の遵守を徹底する。また、業務が偏在しないよう校内組織の見直しを図る。 ・各分掌や各部での業務の見直しや、削減に向けての取組を積極的に進める。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の充実感や達成感の把握 ・保護者アンケートや保護者懇談等での意見・要望 ・学校運営協議会等、外部機関からの意見や評価
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年にかかわる行事を授業に取り入れ、体験的な活動を中心に学習を進めた。 ・連絡帳、通信等による具体的内容の情報発信が、保護者と共通理解を深める関係の構築に繋がった。 ・命を守る訓練を様々な状況を想定して計画的に実施した。また、水害を想定した訓練も行い、児童生徒の上階への避難方法についても職員間で確認した。防災に関する専門家を招いた講習では、避難所運営について全職員で体験を通じた研修を実施した。また、地域代表との協議会をもち、さまざまな課題を確認した。 ・会議等の精選や退勤時間の励行等の言葉掛けにより、勤務時間の削減意識が高まってき

	た。また、退勤時間を超えての従事について、事前申告書を提出することにより、計画的に業務を進めた。
評価の視点	評価
・児童生徒個々の教育目標を的確に捉え、ニーズに応じた指導・支援、及び指導力の向上を図ることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
・学校情報を発信することで、保護者との共通理解の構築や地域の教育力の活用に努めることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
・防災教育（命を守る教育）を充実させることができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
・働き方改革を推進することはできたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
<p>○各学部ごとに研修部を中心とした授業研修を行い、職員が共通テーマを意識した授業づくりに取り組み、知的障がいキャリア教育段階表を作成することができた。また、タブレット端末等、ICTを活用した授業を積極的に取り入れることができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、学校行事が保護者や地域へと開かれたことで、これまで以上に学習の成果を発表、発信することができた。</p> <p>○昨年度に引き続き、自治会・地域住民と避難所運営協議会を開催することができ、避難所開設に向けて組織の確認や課題等を検討することができた。</p> <p>○分掌業務の見直しや、分掌間の連携を軸に業務の平準化・効率化を進め、成果や課題について明らかになってきた。</p> <p>▲知的障がいのキャリア教育段階表の内容について、各ステージに見合ったものか検証していく必要がある。</p> <p>▲保護者アンケートから、学習指導において児童生徒の特性に合わせた教育を求められており、教職員の専門性の向上を図る必要がある。</p> <p>▲業務の偏在は少なくなりつつあるが、さらに来年度、業務の平準化・効率化をめざして学校組織、学校行事の見直しを行っていく方向で進めている。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準を明確にした、授業改善につなげる評価表の見直し ・障がい特性の理解と支援方法の研修等、教職員の専門性の向上 ・児童生徒の防災に関する実際的な学習内容の工夫 ・教職員のやりがいと指導の充実をめざした校内分掌業務と組織の見直し

学校関係者評価（令和6年3月開催）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念事業で立ち上げたフレンズクラブが就労の力になる。これからも協力できる場所があれば協力していきたい。 ・昨年度と比較して、日常が戻ってきた感じがした。この運営協議会に参加し、先生たちと一緒に学校の運営にかかわっている意識が高まった。学校の運営方針や子どもたちの特性を理解し、みんなで支え合う地域を作っていききたい。 ・創立50周年と新型コロナウイルス感染症の5類移行が重なった。各行事で更に地域に発信していくとよい。 ・学校に出てくる子どもたちの小さな気づきを大切にしたい。一人一人の子どもの受け取り方に合わせて接していきたい。 ・卒業生の職業講話では、できるだけ卒業してすぐの身近な人で、失敗談を含めた話が効果的だと思う。